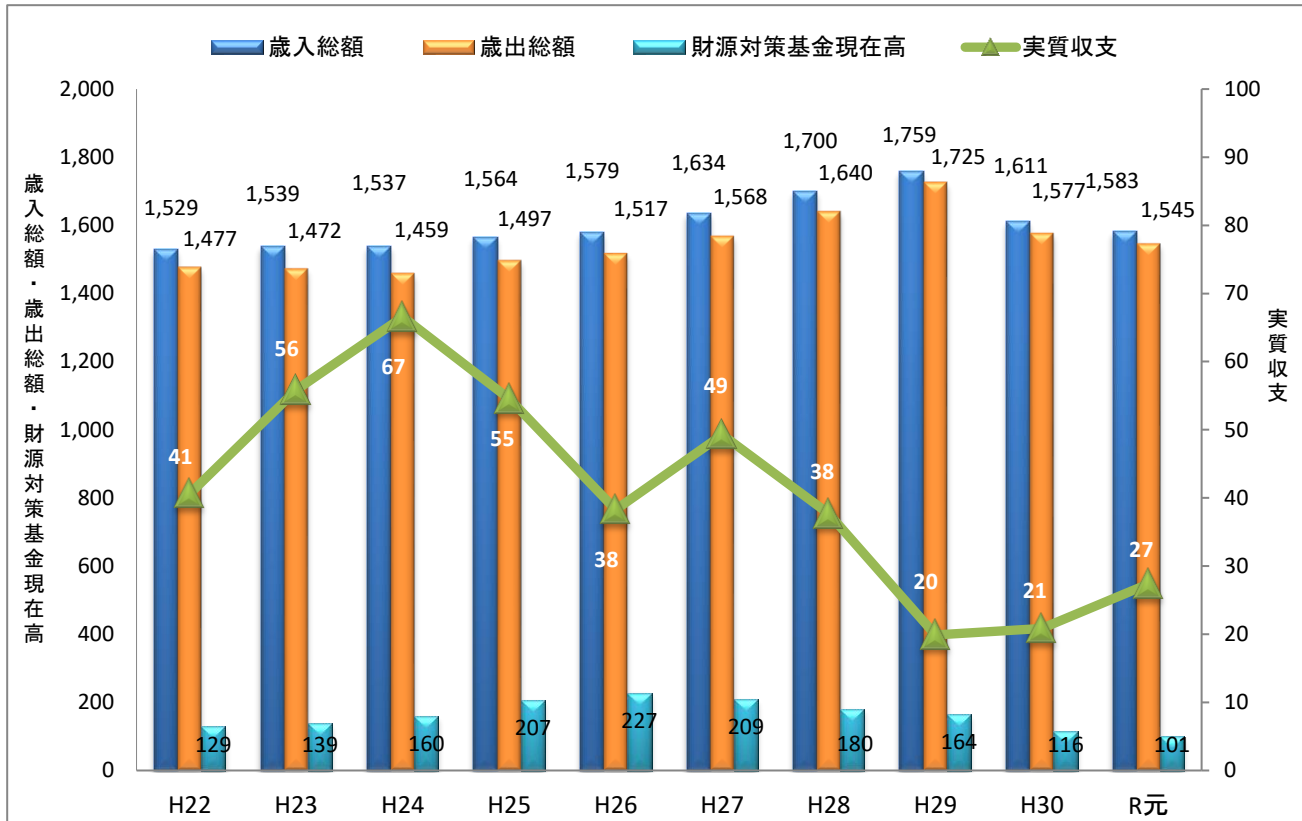


I. 財政状況の年度推移編(一般会計)

本資料中の中核市のデータは、令和2年9月4日現在における中核市市長会ホームページ上の各市のデータを基に作成したものです。また、四捨五入の関係上、各グラフ間の数値が合計と合わない場合があります。

1. 決算概況

(単位:億円)



【グラフの解説】

一般会計の歳入・歳出の規模は増加傾向にありましたが、平成30年度から2年連続で、歳入・歳出ともに減少しました。令和元年度の実質収支は27億円となり、前年度より6億円の増となりましたが、財政調整基金の残高は減少が続いています。

☆家計で考えると・・・家の増築など高額な支出とそのため仕送りや借金が減り、収入・支出とも減少しましたが、実は、貯金を取り崩しながらやりくりしている状況が続いています。

【用語の解説】

●実質収支(歳入－歳出－翌年度への繰越財源)

歳入と歳出の差から、未払いとなっている金額を差し引いたもの(最終的に手元に残る金額)。

●財源対策基金

財政調整基金、減債基金、施設整備基金

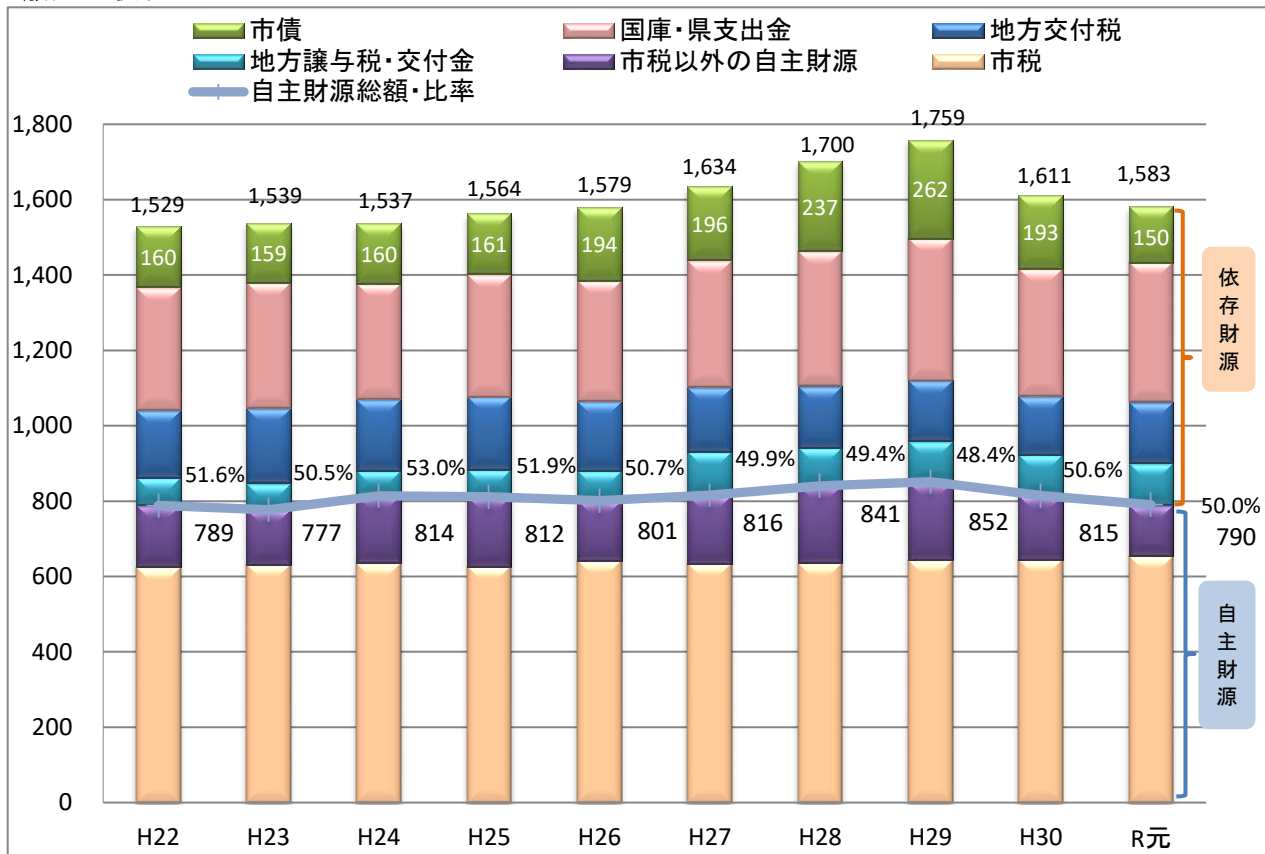
家計で考えると・・・

●実質収支

歳入額		
1年間に稼いだ収入と取崩した貯金の合計額		
歳出額	翌年度に繰越す財源	実質収支
1年間で実際に支払った金額	注文した品物が年内に取寄せできなかったために未払いとなっている金額	最終的に手元に残る金額

2. 歳入の状況

(単位: 億円)



【グラフの解説】

本市が自主的に確保できた自主財源は、市税は増加したものの、幼児教育無償化による保育所入所者負担金の減などにより、分担金及び負担金などの収入が減少した影響で、令和元年度は約25億円減少しました。

一方、自主財源以外の依存財源は、幼児教育無償化や低所得・子育て世帯向けプレミアム付商品券事業の実施などにより、国庫支出金や地方特例交付金などが増加したため、令和元年度は約4億円の減少に留まりました。

結果として、自主財源比率は50.0%と0.6ポイントの減となり、引き続き、市債の圧縮と自主財源の更なる確保に取り組む必要があります。

☆家計で考えると・・・

収入の半分は自分たちで稼ぎ、残りの半分は仕送りや借金に頼っている状況です。

【用語の解説】

自主財源

●市税

住民の皆さんからの税金収入(個人住民税、法人住民税、固定資産税など)。

●市税以外の自主財源

施設の使用料収入や手数料収入、財産収入、寄付金、基金(貯金)の取崩し(繰入金)、前年度からの繰越金、諸収入。

●自主財源比率

歳入総額に占める自主財源の比率。行政活動の自主性と安定性の確保のため、高いほうが望ましい。

依存財源

●地方交付税

普通交付税と特別交付税があり、地方の実情に応じて国から交付されるお金。

・「普通交付税」...すべての地方公共団体が一定の行政水準となるよう財源を保障するため、財源不足が生じる場合に国から交付される。

・「特別交付税」...渇水や災害対策など自治体の特殊事情に対して交付される。

●地方譲与税

地方公共団体の財源とされているものについて、課税の便宜などの事情で国が代行徴収し、地方に配分する地方税。

●国庫・県支出金

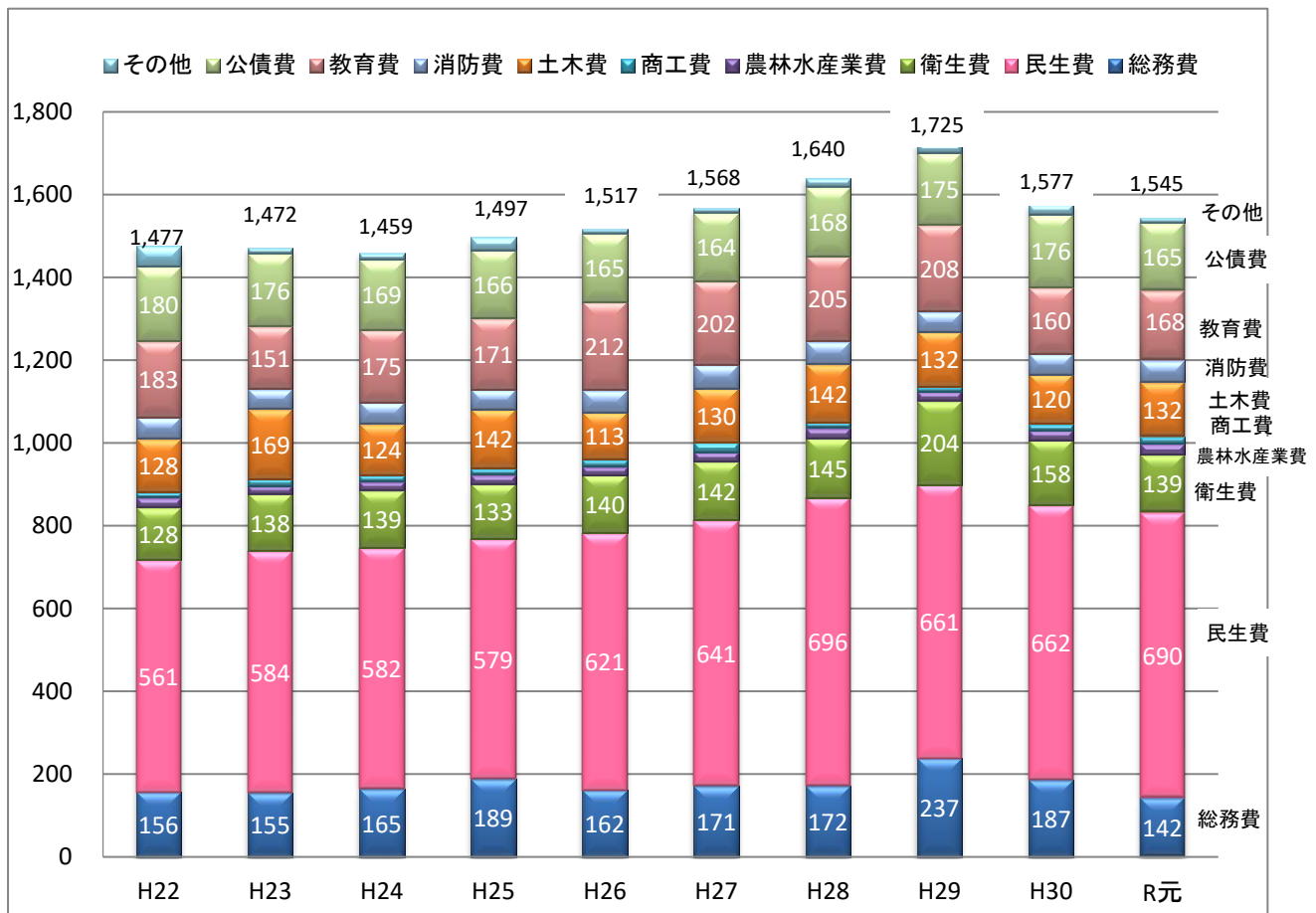
特定の事業や施策に関して国や県が市に対して支出する負担金、委託料、補助金。

●市債

建設事業などまちづくりのために借りたお金。

3-1. 歳出の状況(目的別)

(単位:億円)



【グラフの解説】

歳出(目的別)において、令和元年度で大きな割合を占めているのは、高齢者・障がい者・児童に関する福祉サービスや生活保護などの民生費(690億円)、学校教育や社会教育の振興などの教育費(168億円)、市が発行した地方債の償還金などの公債費(165億円)などです。

歳出総額に占める割合は、民生費が一番大きく、福祉・医療・介護などの社会保障費の増大により、歳出総額に占める割合は、令和元年度は約45%となっています。

☆家計で考えると・・・

祖父母の介護や医療、子どもの成長に要する費用が年々大きくなっており、支出の4割を上回るようになってきました。

【用語の解説】

●総務費

本庁舎管理、戸籍、統計、徴税、選挙、職員に要する経費等、市の全般的な管理事務に要する経費。

●民生費

生活保護、障がい者・老人・児童福祉等、社会生活の安全等に要する経費。

●衛生費

健康づくりや環境対策、ごみ・し尿処理等に要する経費。

●商工費

商工業の育成、観光の振興等に要する経費。

●土木費

道路、公園、住宅の整備等に要する経費。

●教育費

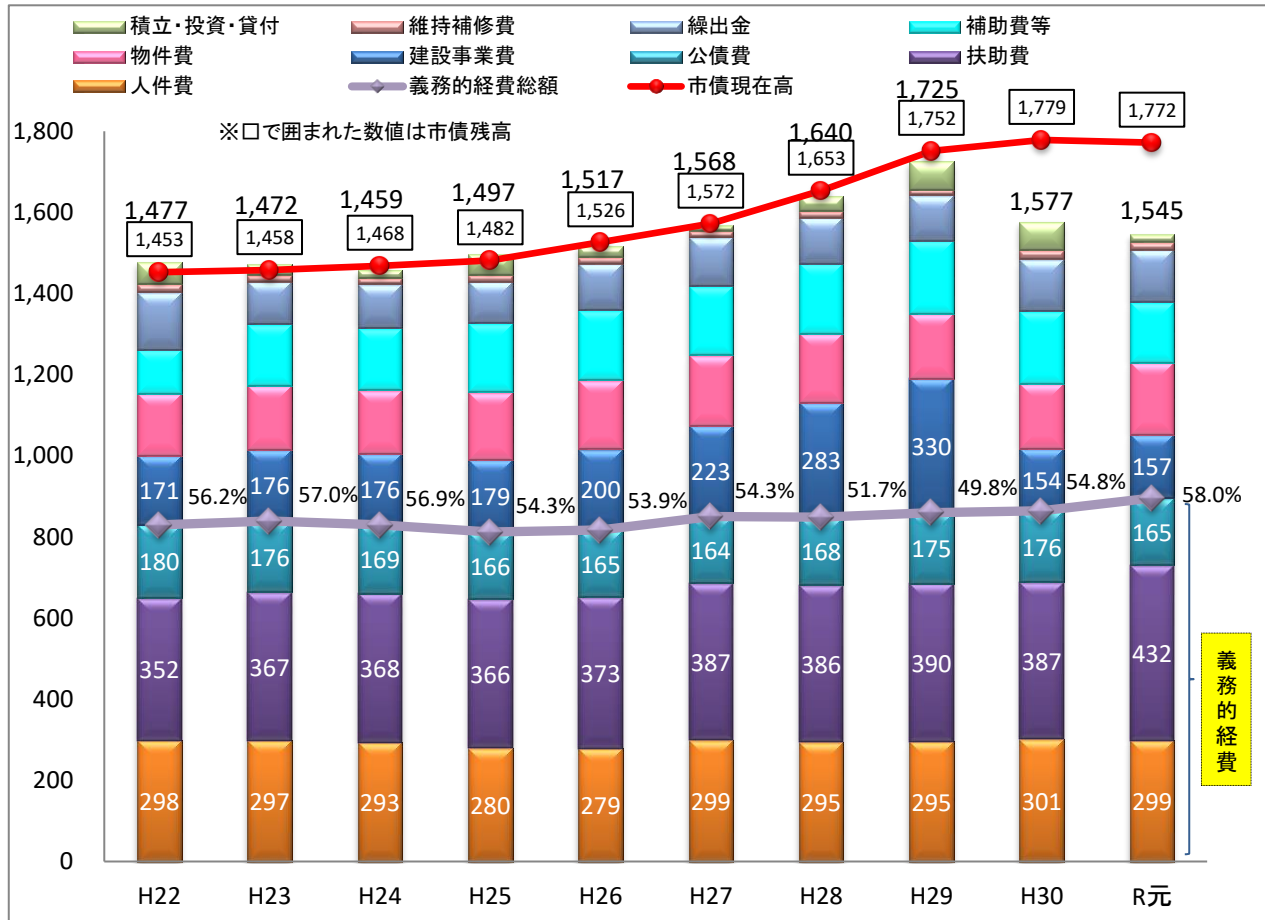
学校教育や社会教育の振興等に要する経費。

●公債費

地方公共団体が発行した地方債の元利償還等に要する経費。

3-2. 歳出の状況(性質別)

(単位:億円)



【グラフの解説】

歳出(性質別)において、大きな割合を占めているのは、扶助費や人件費、公債費といった義務的経費です。推移を見ると、財政の硬直化を示す人件費・扶助費・公債費を合わせた義務的経費の歳出に占める割合は、令和元年度において58.0%となり、前年度比で3.2ポイントの増となっています。今後も社会保障費の増大による扶助費の増、近年大型建設事業が続いていたことによる公債費の増が予想され、義務的経費は増加していくことが予想されます。

☆家計で考えると・・・

生活費や家のローンなど必ず支払わなければならないお金は支出のうち半分程度という状況です。最近家を増築したため、今後ローンの支払が増える予定です。

【用語の解説】

●人件費

職員の給料や退職金、議員・非常勤嘱託職員への報酬など。

●扶助費

生活保護や児童手当など、国の法律(社会保障制度)に基づく支給と市独自で行う各扶助のための支給。

●公債費

市債(借金)の返済。

●義務的経費

行政運営上、毎年固定的に必要な経費で、任意に削減し難い性質を持っている。

●建設事業費

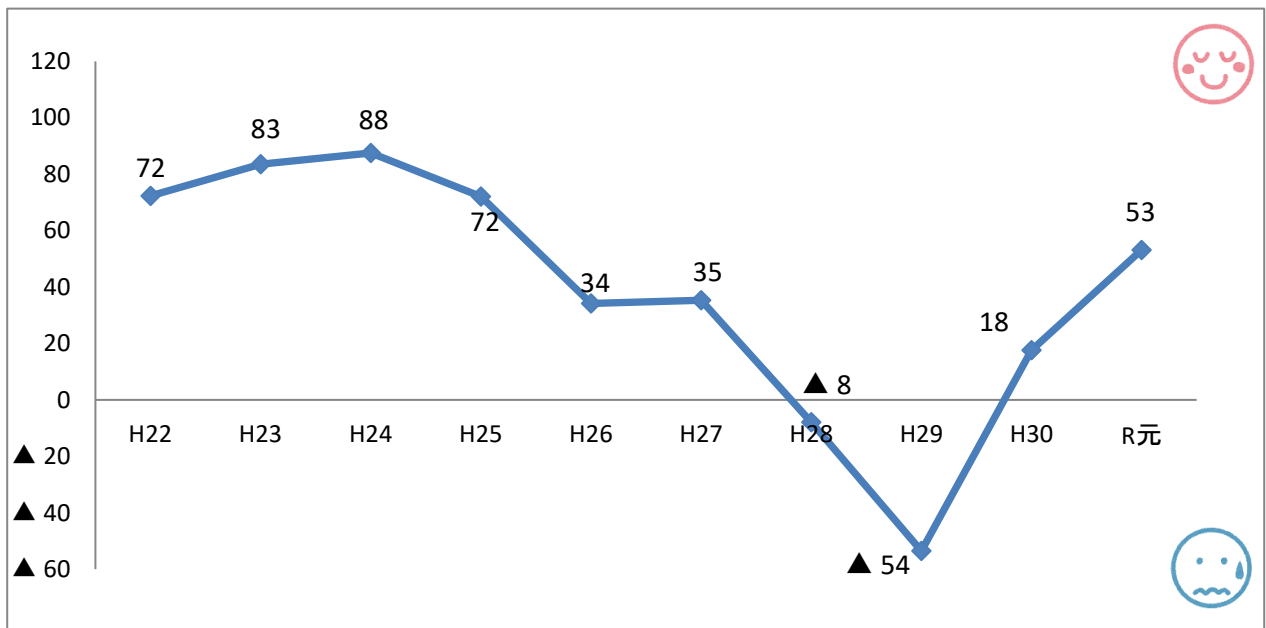
その支出の効果が道路や橋などのインフラや、学校やごみ焼却施設等の施設など、資産として将来に残るものに支出される経費。

●繰出金

国民健康保険事業や介護事業、病院事業などの特別会計や企業会計へ拠出するお金。

4. プライマリーバランス

(単位: 億円)



【グラフの解説】

全体として悪化傾向にありましたが、大型建設事業の終了などにより市債(借金)が減り、平成30年度からは改善して、令和元年度は53億円の黒字となりました。

更に改善するためには、今後の大型建設事業をはじめ、事業の見直し等によって市債(借金)を抑制することと、税金など市債以外の収入を伸ばすことが課題です。

☆家計で考えると・・・

自分たちで稼いだお金や仕送りの中から、借金の返済に、お金を一部まわしている状況です。

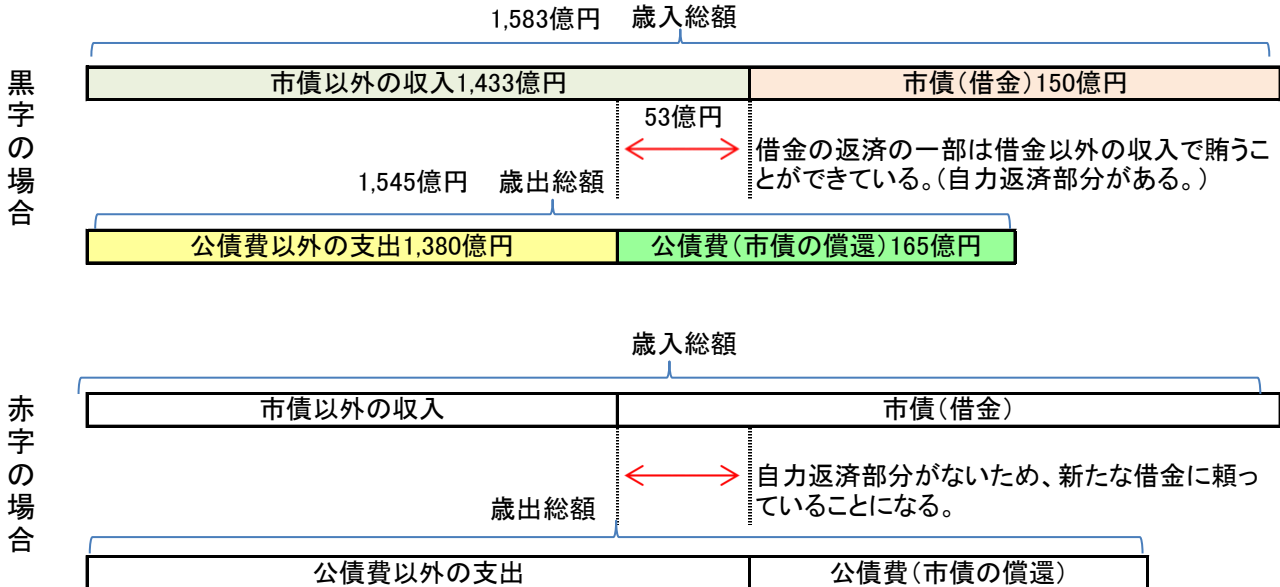
【用語の解説】

●プライマリーバランス

政策的な支出を新たな借金に頼らずに、その年度の税金等で賄われているかどうか、子どもや孫など次の世代に負担を先送りしているかどうかを示す指標。マイナス(赤字)になると、借金の返済以外の支出が税金など借金以外の収入で賄えていないことになり、将来へ負担を先送りしていることになる。

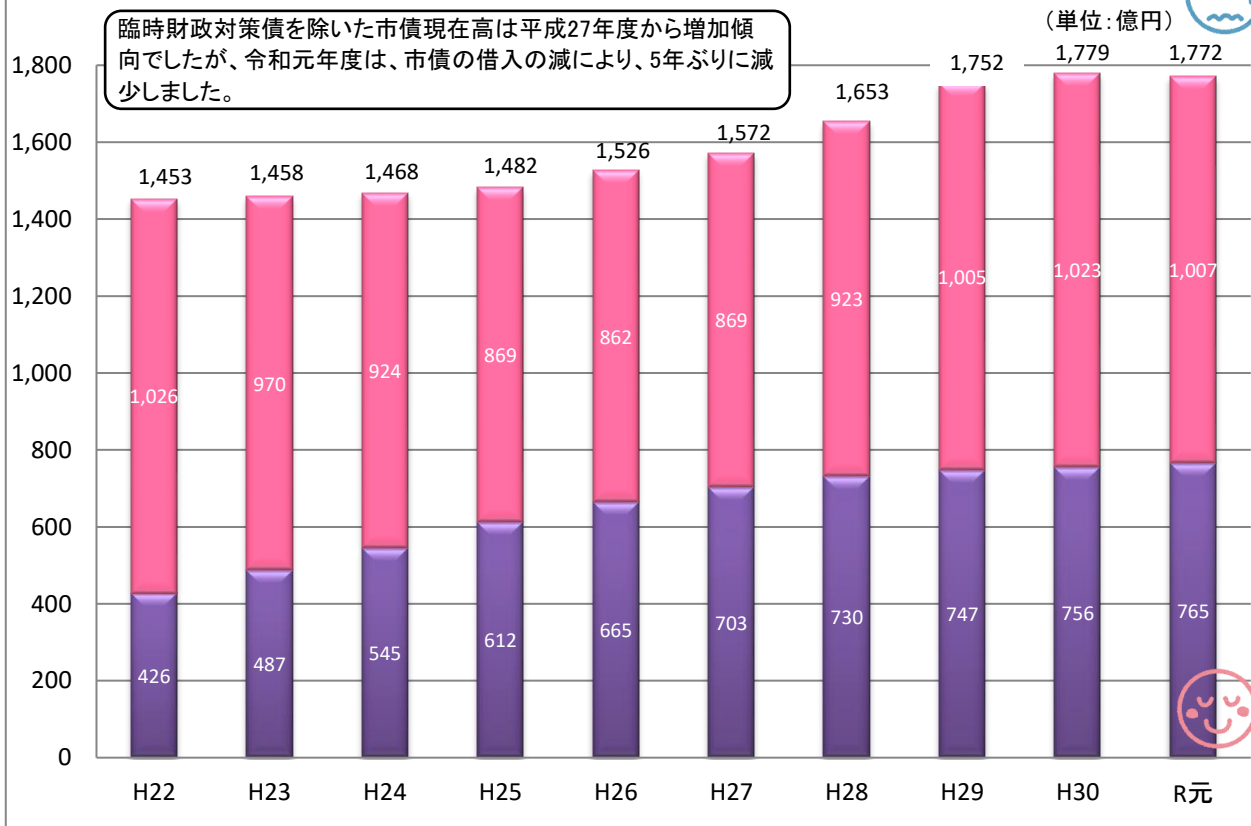
算出方法

(歳入総額－市債収入)－(歳出総額－公債費)



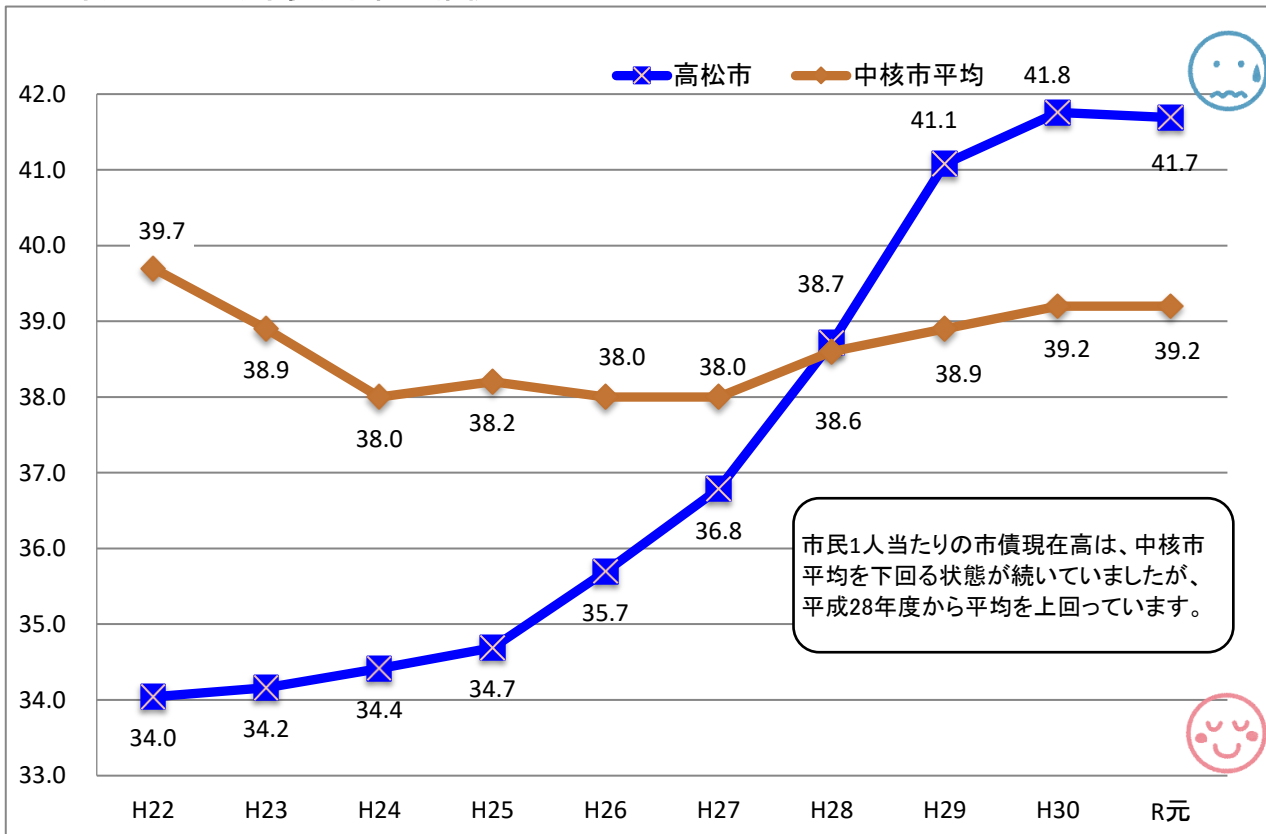
5-1. 市債現在高の推移

※臨時財政対策債とは、国において地方交付税総額が不足する場合、不足額を国と地方で折半し、地方分について各団体が発行する市債です。償還に要する費用は後年度の地方交付税で措置されるため、実質的な地方交付税とも言われています。



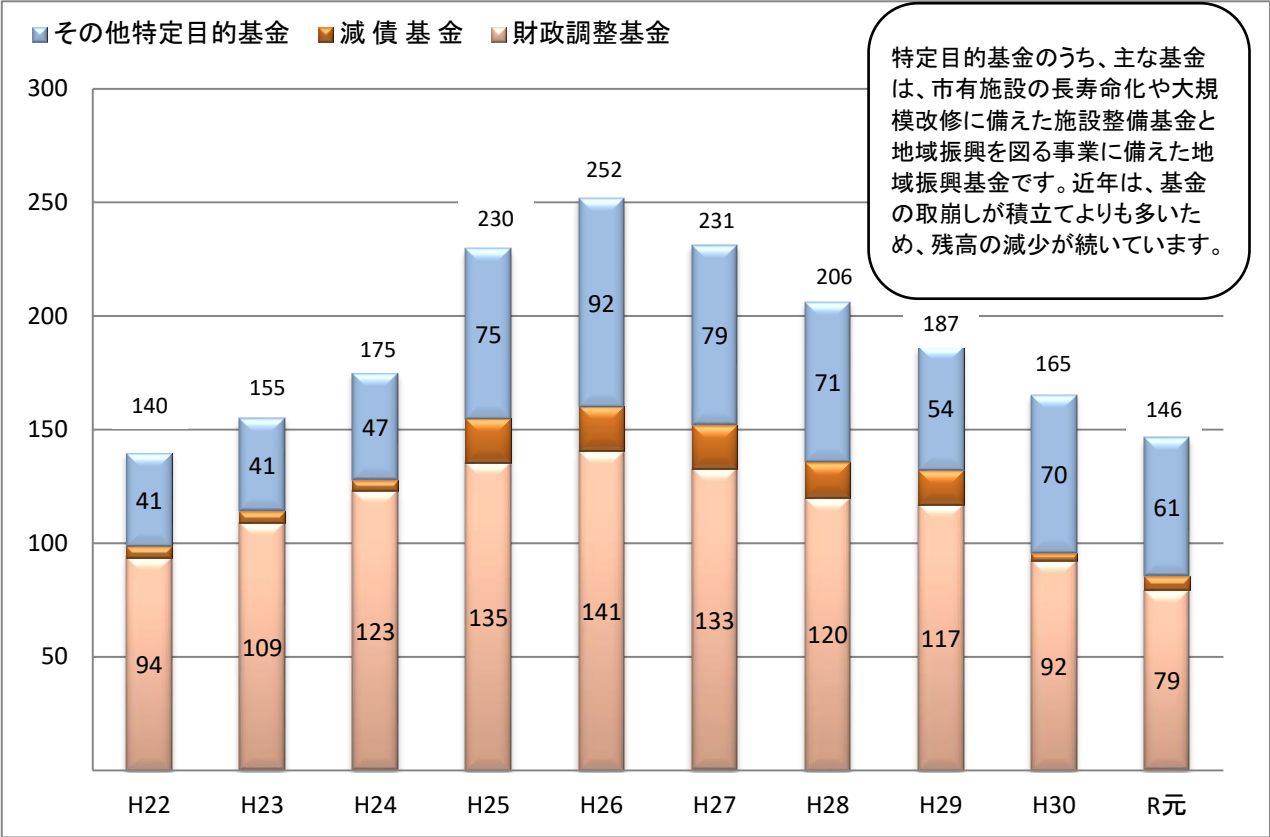
5-2. 市民1人当たり市債現在高の推移

(単位: 万円)



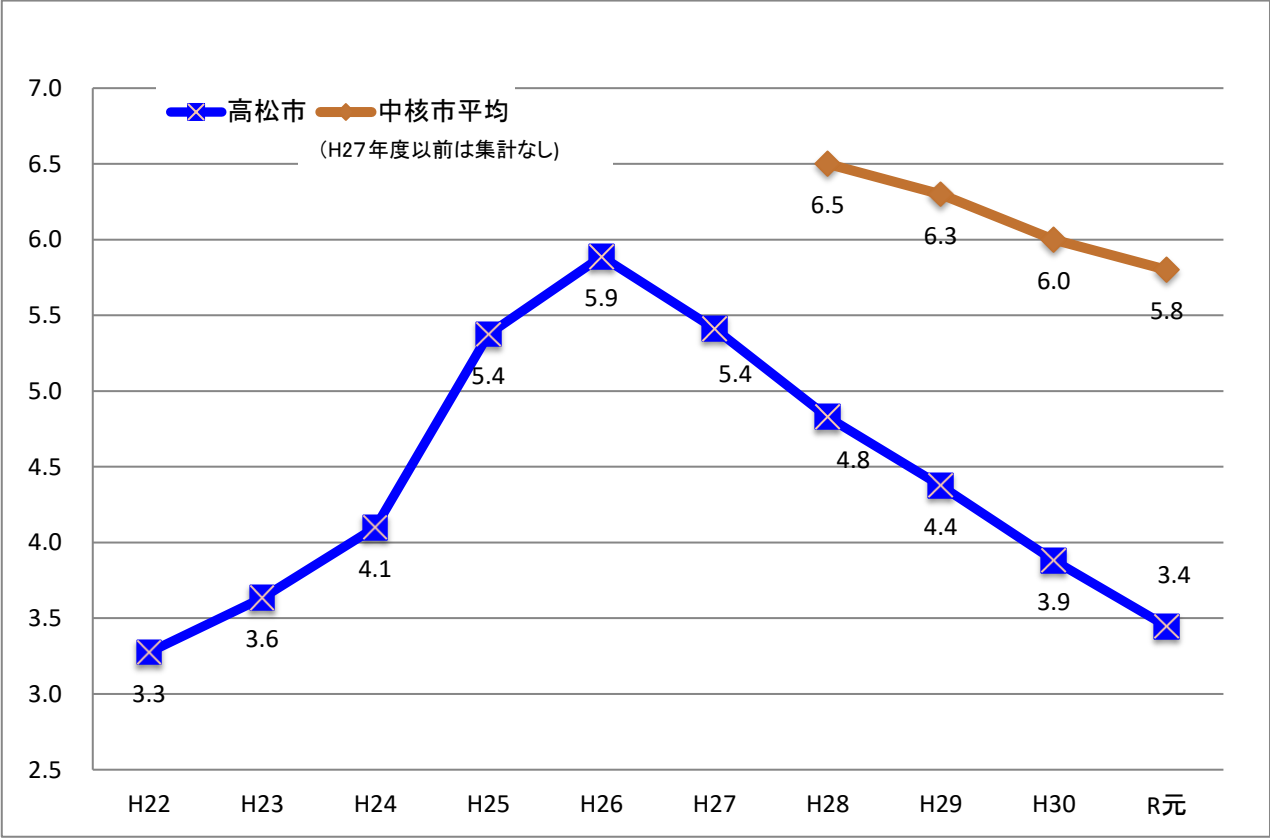
6-1. 積立基金現在高の推移

(単位:億円)



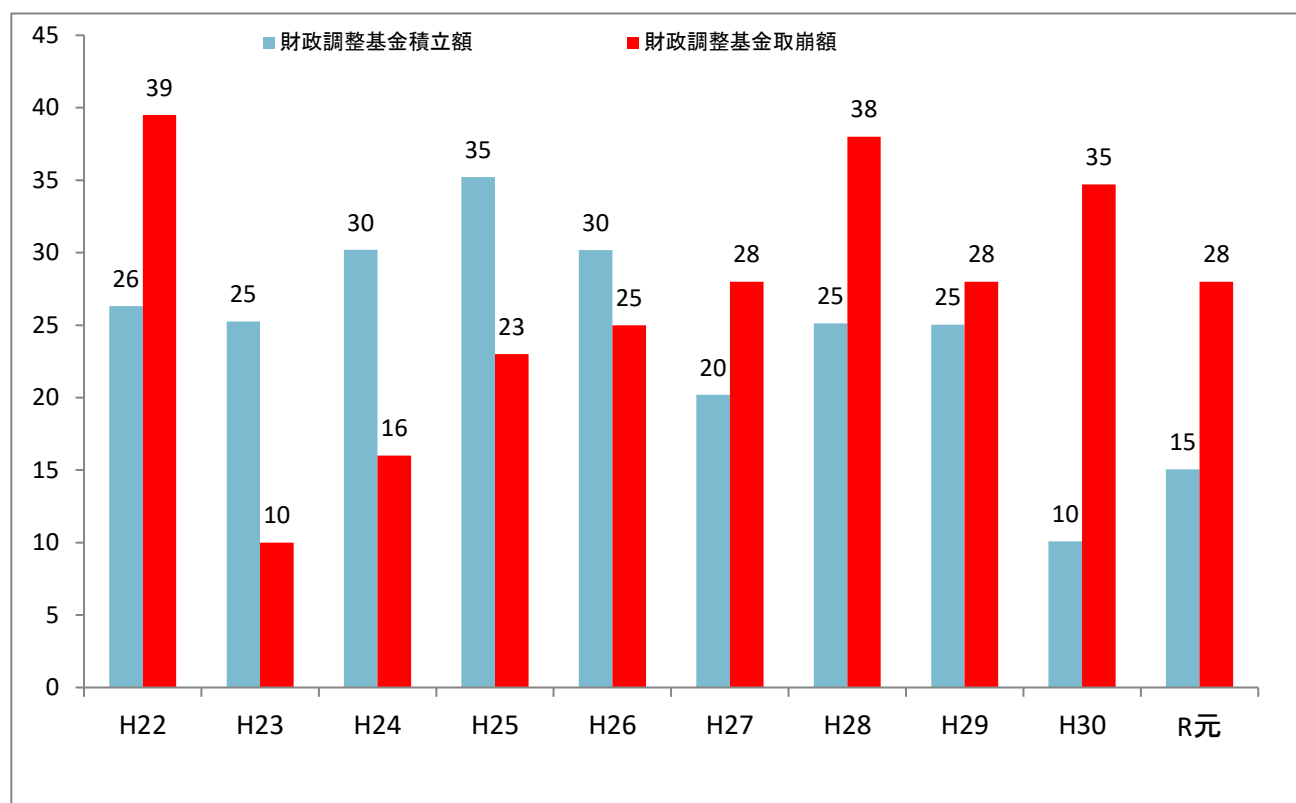
6-2. 市民1人当たり積立基金現在高の推移

(単位:万円)



7. 財政調整基金の積立て・取崩しの状況

(単位:億円)



8. 過去の決算の主な特徴

(単位:億円)

2019 (令和元)	特徴	歳入・歳出とも2年連続減 市債残高(臨時財政対策債除く)は、前年度末比約16億円減(5年ぶりの減) 財源対策基金残高は、前年度比約15億円減	
	主な事業	事業名	歳出額
		学校給食センター建設事業費	20.8
		新駅整備事業費	8.1
2018 (平成30)	特徴	歳入・歳出ともに6年ぶりの減 財源対策基金残高は、前年度比約49億円減	
	主な事業	事業名	歳出額
		病院事業会計出資金(みんなの病院建設事業)	14.0
		小中学校トイレ整備事業	8.8
2017 (平成29)	特徴	歳入・歳出ともに過去最大規模(5年連続増) 市債残高(臨時財政対策債除く)は、前年度末比82億円増 プライマリーバランスは、約54億円の赤字(2年連続の赤字)	
	主な事業	事業名	歳出額
		防災合同庁舎整備事業費	71.5
		西部クリーンセンター大規模改修事業	49.5
2016 (平成28)	特徴	歳入・歳出ともに過去最大規模(4年連続増) プライマリーバランスは、約8億円の赤字(13年ぶりの赤字)	
	主な事業	事業名	歳出額
		こども未来館等整備事業	39.9
		屋島競技場整備事業	47.6
2015 (平成27)	特徴	歳入・歳出ともに過去最大規模(3年連続増) 市債残高(臨時財政対策債除く)は、前年度末比約7億円増(6年ぶりの増) プライマリーバランスは、約35億円の黒字(12年連続黒字)	
	主な事業	事業名	歳出額
		プレミアム付き商品券事業	6.2
		中学校施設耐震化事業	24.8
2014 (平成26)	特徴	歳入・歳出ともに過去最大規模(2年連続増) 市債残高(臨時財政対策債除く)は、前年度末比約8億円減(5年連続減)	
	主な事業	事業名	歳出額
		小学校空調設備整備事業	10.0
		中学校施設耐震化事業	22.4
2013 (平成25)	特徴	歳入・歳出ともに過去最大規模 市債残高(臨時財政対策債除く)は、前年度末比約54億円減(4年連続減)	
	主な事業	事業名	歳出額
		高松駅南交通広場整備事業	15.5
		東部運動公園整備事業	13.9
2012 (平成24)	特徴	歳入・歳出ともに決算規模は前年度と同等規模 市債残高(臨時財政対策債除く)は、前年度末比約47億円減(3年連続減)	
	主な事業	事業名	歳出額
		小学校空調設備整備事業	9.9
		中学校施設耐震化事業	18.9
2011 (平成23)	特徴	歳入・歳出ともに決算規模は前年度と同等規模	
	主な事業	事業名	歳出額
		幼保一体化整備事業	9.2
		丸亀町商店街再開発事業	39.4

9. 令和元年度決算を反映した財政状況についての総括的評価

令和元年度は、臨時財政対策債を除く市債残高が5年ぶりに減少に転じましたが、財源対策基金の残高は減少が続いており、依然として、厳しい財政状況にあります。

今後も、子ども・子育て支援施策や医療・介護などの社会保障給付、老朽化施設の更新に加え、新型コロナウイルス感染症拡大防止と社会経済活動の両立を図りながら、健全財政を確立するため、これまで以上に、各施策・事業のより厳密な選択を行い、予算編成に取り組んでいく必要があります。